

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『身近な税金、私たちの命と暮らし』

町田市立鶴川第二中学校 3学年 馬場 愛実

夏休み前、私たちの学年で租税教室が行われた。正直、それまでの私は「税金」という言葉に少し堅苦しいイメージを持っていた。ニュースなどで耳にするのは、難しい制度や計算ばかりで実生活にどのように関わっているのかよくわからなかったからだ。しかし、講師として来校してくださった市の税理士の方々は、身近な例やクイズを交えながら税金が国や地域でどのように使われているのかわかりやすく説明してくださった。そのおかげで、税金が私たちの生活にどれほど身近で、必要なものなのか初めて実感することができた。

租税教室の後、具体的に学校のどこに税金が使われているのか自分で調べてみた。学校の校舎や体育館、プールなど日常的に使う施設の多くに使われていることがわかり、当たり前前に感じていた「税金」のありがたみが分かった。その中でも特に、学校のエアコンの設置や光熱費にも税金が使われているということが印象に残った。

私は以前、夏の暑い日の授業中に体調を崩し保健室で休んだことがある。そのとき、保健室のエアコンが効いていたおかげで私はすぐに体調を回復させることができた。また、私たちが入学する少し

前に体育館にもエアコンが設置されたそうだった。そのおかげで体育の授業中や学年集会などで体調を崩す人が以前より減ったのではないかと思う。こうした経験から、私たちの命や健康も税金に支えられているのだと実感した。

そう考えると、ここ最近ニュースや新聞などで耳にする「税金の無駄遣い」という言葉も気になる。もし必要のない事業やほとんど使われない施設にお金がかかっていたとしたら、私たちの体育館にエアコンは設置されていなかったかもしれない。それだけでなく、道路や橋の修理、病院の設備、災害への備えといった安全や暮らしを守る取り組みにも影響が出てしまうだろう。税金は限りあるお金だからこそ、健康を守ることや生活の基盤を整えることに優先して使うべきだと強く感じた。

将来、私も働いて税金を納めるようになる。そのとき、自分の納めたお金がどう使われるのか、納得できる形であってほしい。だから、若いうちから税金について知り、考える習慣を持つことが大切だと思う。そして、私は社会の一員として、税金の使い道について常に関心を持ち続けたいと考えている。

税金はただのお金ではなく、人々の暮らしを支える力だ。私は、その力が必要な場所にしっかりと届く社会であってほしいと願っている。誰もが安心して暮らせる社会のために、税金の使い道について考えることは、私たち一人一人にとって大切なことだと思う。